



(様式1)

平成28年 1月26日

京丹後市議会議長 様

会派名 清風クラブ
代表者氏名 吉岡和信

調査研究等計画書

下記のとおり計画しましたので届け出ます。

記

- 1 日程 平成28年 1月28日(木)、29日(金)
- 2 場所 ①(株)シーアクト生物活性物質研究所
茨城県つくば市上横場446-1 農林水産先端技術研究所内
② 群馬県庁 群馬県前橋市1-1-1
- 3 目的 ① 藻類による新産業創出の事業化及び企業誘致の可能性調査
② 高機能シルクに関するシンポジウムへの参加
- 4 該当する政務活動費の用途項目
① 調査研究費 ② 研修費
- 5 概算経費 430,000円(交通費宿泊費 $55,950 \times 7$ 人=391,650円+タクシー実費)
(シンポジウム意見交換会参加費 4,000円 $\times 7$ 人=28,000円)
- 6 参加議員名 吉岡和信、松本経一、谷口雅昭、中村雅、芳賀裕治、堀一郎
由利敏雄 (以上7名)
- 7 参考添付資料等
①行程表
②(株)シーアクト会社概要
③公開シンポジウム「カイコ産業の未来」案内資料
④旅費概算資料

行程表

1月28日 (木)	峠山 普通 9:14 9:50 (特)たんにゴリレ-2号 笹見山 (特)さのさき 6号 京都 9:03 9:18 のぞみ 4号 東京 11:33 東京 JR山手線 秋葉原 つくばエクスプレス 秋葉原 タクシー (約15分) (所要 約45分) (約20分) (乗車券 1190円) (乗車券 1030円)	マロウドイン赤坂(泊)
1月29日 (金)	東京 MAX たにがわ83号 9:52 高崎 11:42 11:08 JR両毛線 普通 前橋 11:23 高崎 11:08 前橋 11:23 前橋 11:23 高崎 11:08 JR両毛線 普通 前橋 11:23 ホテル(お荷物預け) タクシー (約3分) タクシー (約5分)	群馬県庁 タクシー (約5分) 前橋さくらホテル(泊)
1月30日 (土)	前橋 普通 10:00 10:17 10:42 高崎 10:17 10:42 東京 11:32 12:40 のぞみ 235号 京都 17:55 18:05 さのさき 1号 福岡 19:54 20:24 前橋 普通 21:06 21:16 高崎 21:30	秋葉原 17:55 18:05 前橋さくらホテル(泊)

【ご宿泊先】 1月28日(木) 東京:赤坂 マロウドイン赤坂 TEL 03-35585-7611
 1月29日(金) 群馬:前橋 前橋さくらホテル TEL 027-220-1818

ツエービー代理業
 (JTB総合提携店)
 株式会社ツエービーサービス
 豊後店営業所(アイトイ3階)
 TEL C796-22-0007
 FAX C796-22-000E

ご旅行代金ご請求書

清風クラブ 御一行様

合計 376,250 円

つくば:前橋

2016年 1月28日～ 1月30日

摘 要	単 価	人 員	合 計
峰山～福知山 往復乗車券	2,240 円	7 人	15,680 円
1/28 宮津～福知山 指定席特急券 片道	750 円	7 人	5,250 円
福知山～前橋 往復割引乗車券	18,260 円	7 人	127,820 円
1/28 福知山⇒京都 指定席特急券 (新幹線乗継割引)	640 円	7 人	4,480 円
1/28 京都～東京 のぞみ指定席	5,500 円	7 人	38,500 円
東京⇒秋葉原 乗車券	140 円	7 人	980 円
1/29 東京⇒高崎 新幹線指定席特急券	2,990 円	7 人	20,930 円
1/30 高崎⇒東京 新幹線指定席特急券	2,990 円	7 人	20,930 円
1/30 東京⇒京都 のぞみ指定席特急券	5,700 円	7 人	39,900 円
1/30 京都⇒福知山 指定席特急券 (新幹線乗継割引)	740 円	7 人	5,180 円
	円	人	0 円
1/28 マロウドイン赤坂 1泊食事なし	8,800 円	7 人	61,600 円
1/29 前橋さくらホテル 1泊食事なし	5,000 円	7 人	35,000 円
	円	人	0 円
	円	人	0 円
	円	人	0 円
	円	人	0 円
小 計	53,750 円	7 人	376,250 円
お 申 込 金	△ 円	人	△ 円
合 計	53,750 円	7 人	376,250 円

(税込)

平成20年1月23日

ジェイティ ビー代理業
 (JTB総合提携店)
 株式会社トラベルサービス
 豊岡店営業所(〒663-8301)
 兵庫県豊岡市大
 電話(0796)-22
 FAX(0799)-22
 作成 松

株式会社シー・アクト

代表者

坂倉 良男

本社所在地

〒349-0115

埼玉県蓮田市蓮田 1585 番地

TEL. 048-876-9777

生物活性物質研究所

〒305-0854

茨城県つくば市上横場 446-1

→アクセス

TEL. 029-893-2167

FAX. 029-893-2167

資本金

2,300 万円

設立

2014 年

従業員数

5 名 (2015 年 6 月現在)

役員

取締役 坂倉 良男

取締役 彼谷 邦光

取引銀行

常陽銀行

事業内容

微細藻類などの微生物が生産する有用物質の大量生産技術の開発

[このページの先頭へ](#)

[トップページ](#) > 第8回公開シンポジウム 「カイコ産業の未来」

お知らせ

生物研

平成27年12月15日

国立研究開発法人 農業生物資源研究所

第8回公開シンポジウム「カイコ産業の未来」

－高機能シルクの実用生産に向けて－

ポイント

- 農業生物資源研究所（生物研）と群馬県は共催で、第8回公開シンポジウム「カイコ産業の未来」を平成28年1月29日金曜日に群馬県庁2階ビジターセンターで開催します。（参加費無料（意見交換会4,000円））
- 遺伝子組換えカイコを利活用した研究開発と産業化の動向、特に高機能シルクの研究開発、事業化と農業現場への取り組み等に関する最新情報を提供します。

概要

平成26年6月の「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産登録に伴い、カイコ産業に注目が集まっています。

このような中、平成12年に生物研を中心として開発された遺伝子組換えカイコ（以下、組換えカイコ）は、遺伝子の機能解析など基礎研究への利用にとどまらず、抗体や検査試薬など医薬品関連の有用タンパク質や新たな機能を付与した高機能シルクの開発などに対し、様々な技術的革新をもたらしました。すでにその一部はヒト・動物の検査用試薬や化粧品素材の生産手法として実用化されているものもあります。当研究所では、このような動向を従来の養蚕業とは異なる「新たなカイコ産業」として位置付け、更なる発展を目指して研究開発を進めております。

公開シンポジウム「カイコ産業の未来」は、組換えカイコに関する技術開発の現状と実用化に向けた取り組みを広く紹介すると共に今後の展望等について議論し、実用化の流れを加速することを目的として企画致しました。今年度で8回目を迎えますが、今回は「高機能シルクの実用生産に向けて」というテーマでシンポジウムを開催致します。

－ 記 －

開催日時：平成28年1月29日（金曜日）13：00～16：50（受付12：00より）



会場：

群馬県庁2階ビクターセンター
前橋市大手町1-1-1 (JR両毛線前橋駅下車、バス約6分)

主催：国立研究開発法人農業生物資源研究所、群馬県

参加費：無料 (意見交換会4,000円)

申込み方法：申込用紙に記載のうえ、電子メールまたはFAXにてお申し込み下さい。

申込用紙 [ Word形式、  PDF形式]

電子メールアドレス (シンポジウム専用) : kaiko34@nias.affrc.go.jp

FAX送信先 : 029-838-8465 (生物研 遺伝子組換え研究推進室宛)

(満席になり次第、締め切らせて戴きます。) 締め切りました

申込み締切：平成28年1月22日(金曜日)満席につき、締め切りました。当日申込不可。

<記載事項>

- ① お名前 (ふりがなも記入願います) :
- ② 勤務先名 :
- ③ 所在地 :
- ④ 電話およびFAX番号 :
- ⑤ 電子メールアドレス :
- ⑥ 交流会への参加 (参加 もしくは 不参加 と記述願います) :
(お申込みを戴いた後、当方から確認の通知を致します。)

ポスター  [928KB]

プログラム :

I 開会	13:00
II 挨拶	13:00~13:15
主催者挨拶 国立研究開発法人農業生物資源研究所 理事 町井博明	
同上 群馬県 副知事 (または群馬県農政部長)	
来賓挨拶 農林水産省農林水産技術会議事務局 研究総務官 菱沼義久	
III 基調講演	
「バイオテクノロジーが切り拓く未来の農林水産業」	13:15~14:00
農林水産省農林水産技術会議事務局 技術安全室 室長 鈴木富男	
IV 話題提供	14:00~16:45
(1) 「組換えカイコによる高機能シルクの開発と今後の展開」	14:00~14:25
国立研究開発法人農業生物資源研究所 上級研究員 富田秀一郎	
(2) 「クモ糸シルクの開発と利用展開」	14:25~14:50
国立研究開発法人農業生物資源研究所 主任研究員 小島 桂	
~休憩~	14:50~15:05
(3) 「群馬県における組換えカイコの飼育体制構築と農家飼育に向けて」	15:05~15:30
群馬県蚕糸技術センター 主任研究員 桑原伸夫	
(4) 「浜ちりめんと組換えシルクの融合：試作品の作製と今後の展開」	15:30~15:55
浜縮緬工業協同組合 理事長 吉田和生	

- | | |
|---|-------------|
| (5) 「高機能シルクを用いた製品開発と事業化について」
(株) 細尾 取締役 細尾真孝 | 15:55～16:20 |
| (6) 「組換えカイコによる化粧品素材の開発と生産・販売に向けた取組」
(株) 免疫生物研究所 遺伝子組換えカイコ事業部 部長 富田正浩 | 16:20～16:45 |

V 総括 16:45～16:50
群馬県農政部蚕糸園芸課 絹主監 毛利 弘

VI 閉会

VII 意見交換会 17:20～19:20

場所：群馬県庁昭和庁舎 1階 レストラン「G Face Cafe」

会費：4,000円

VIII 世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」展 特別展示 「すごいぞ！カイコの底力」

展示品：伝統技術と先端技術が融合した光るシルク（きもの、帯、ショール等）
クモ糸シルク
カイコにより作り出された検査薬、化粧品等

場所：群馬県庁1階県民ホール（前橋市大手町1-1-1）

日時：平成28年1月26日(火)～1月31日(日)
(10:00～17:00（最終日は15:00まで）)

受付：

当日12時よりシンポジウム会場入口で始めます。

意見交換会：

会場 群馬県庁昭和庁舎 1階 レストラン「G Face Cafe」

時間 17:20～19:20

会費 4,000円

お問い合わせ先など

農業生物資源研究所 理事長 廣近 洋彦

カイコシンポジウム事務局（遺伝子組換え研究センター 遺伝子組換え研究推進室）

電話：029-838-7431 電子メールでのお問い合わせ：kaiko34@nias.affrc.go.jp

広報担当者：農業生物資源研究所 広報室長 谷合 幹代子

電話：029-838-8469

群馬県広報担当者：群馬県農政部 蚕糸園芸課 岡 喜久男

電話：027-226-3092

本資料は文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会、農政クラブ、農林記者会、農業技術クラブ並びに群馬県下の報道機関に配付しています。

[↑ PAGE TOP](#)



(様式2)

平成27年11月 9日

京丹後市議会議長 様

会派名 清風クラブ
代表者氏名 吉岡和信

調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

- 1 日程 平成27年10月29日(木)～30日(金)
- 2 場所 ①東京都千代田区平河町2-4-1 都市センターホテル
②大日本蚕糸会 東京都千代田区有楽町1-9-4
③ジャパンシルクセンター 東京都千代田区有楽町1-9-4
- 3 目的 ①第11回地域医療政策セミナー参加
②最新の養蚕の状況と高機能シルク開発について
③丹後ファッションウィークの展示視察
- 4 該当する政務活動費の使途項目
 - ① 研修費
 - ② 研修費
 - ③ 研修費
- 5 支出経費の内訳と金額
 - ① 交通費、宿泊代 175,320円
- 6 参加議員名
吉岡和信・芳賀裕治・堀 一郎・松本経一・谷口雅昭
(以上5名)
- 7 調査研究成果の概要、所見
別紙 医療セミナー研修報告書
養蚕研修及び丹後ファッションウィーク視察報告書
- 8 成果物、資料等

医療セミナー研修報告書

京丹後市議会清風クラブ

1、研修事項

第11回地域医療政策セミナー

主催 全国自治体病院経営都市議会協議会

2、研修概要

全国市議会議長会の全国自治体病院経営都市議会協議会は、加盟都市・組合議会による病院経営の健全化のための活動に資することを目的に、地域医療政策に関するセミナーを開催している。

今回は、医師不足・偏在をはじめ、地域における医療現場の実態について詳しい二人の講師より、地域医療をいかに守り育てるかについて、それぞれの経歴や実務経験を踏まえた話を聞いた。

3、講師と講演内容

- ① 「何が求められるのか？誰が担うのか？何ができるのか？」
～地域医療構想を医療経営視点から戦略策定する～
公益財団法人筑波メディカルセンター 事務局長 鈴木紀之 氏
- ② 「地域が守る医療」
～兵庫県丹波市の住民の取り組みから～
丹波新聞社 編集部記者 足立智和 氏

4、講演概要

- ① 筑波メディカルセンター事務局長鈴木紀之氏
筑波メディカルセンターは、病床数413床、診療科22科、職員数約1200名の総合病院である。平均在院日数は12.7日、平均病床利用率は83.7%、診療単価は、外来15,607円、入院71,326円である。
病床数800床の筑波大学附属病院が近くにあり、病院の機能や理念などのすみ分けを考えながら、住民に選ばれる病院、地域に欠くことができない病院として経営を続けている。

鈴木氏は、急性期病院が抱える課題を「包囲網」という比喻で解説すると、次の6つの包囲網があるとされた。

(1)医療費の負担抑制策と総需要増大の狭間

国の医療政策は費用の抑制であるが、高齢化による需要は増大している。病院の医療収入は国策による診療報酬抑制方針があり、この狭間で利益を出さねばならない。

(2)少子超高齢化社会における医療の担い手

少子化と高齢化が進み、今後医師・看護師など、医療の担い手不足はさらに深刻になる。人材獲得競争となる中で、担い手をいかにして確保するか。

(3)重装備産業の宿命と再生のシナリオ無き産業

多額の設備投資が避けられない産業である。どんなに経営が厳しくとも新しい設備を入れなければ人材も確保できないジレンマがある。

(4)供給が需要を喚起する

新しく医療が供給できる体制ができると、その地域に潜在的にあった「埋もれていた需要」が喚起され、医療体制を整備しても「供給不足」感が発生する。しかし人口減少などで需要動向については変化の兆しもある。

(5)長期的制度改正への主体的対応

都道府県の作成する地域医療構想や診療報酬に対し、自ら主体的に対応しなければ、病院経営が厳しくなる。自らの強みなどを打ち出し、主体的に経営してゆく、という考えが必要。

(6)全国8700弱ある病院を支えるマネジメントスキル

全国の病院がそれぞれ地域にあったマネジメントの方法を探さなければならぬ。ほかの病院が上手くいったから、同じ手法で自分の病院も上手くいくとはならない、という困難さがある。

このような医療を取り巻く環境の中で、今後勝ち組になれる病院は次の4つだ、と例示された。

(1)大規模効率化機能集約効果的経営病院

例 病床数1万床といった大規模病院グループ

医薬品や医療機器の大量購入による価格交渉力や人材確保力

(2)自己完結型病院

例 地域医療すべてを担う地域密着病院

(3)唯一無二の地域ブランド病院

例 聖路加病院等のブランド病院

(4)絶対的経済基盤がある病院

医療経営のマネジメントを長年やってきた経験から、病院の経営としてまだ伸びしろがあるのに、出来ていない病院は非常に多い。例えば病院には使わない

機器やデッドストックの医療材料などが多量にあることが多いが、「病院は命が中心だ」という感覚が強く、一般企業に比べ、病院の物流管理は全くと言っていいほど後進的である。また、医師の言いなりに高価な機器や薬剤を購入している病院も多い。しかし、事務長の力量がないと医師と対等に張り合えない。医療経営マネジメントの経験不足がこのような状況を招いているのが現状だ、と締めくくられた。

② 丹波新聞社 編集部記者足立智和氏

丹波新聞社は兵庫県丹波市、篠山市をエリアとする地域紙で、足立記者は、兵庫県立柏原病院の医師不足と小児科医を守る住民運動について取材を続けている。

兵庫県丹波市の県立柏原病院の小児科は、常勤医が激務などを理由に次々退職し、常勤医がゼロになるところまでになった。まさに小児科医療の崩壊であった。その背景は、夜間の受診などで医師が疲れていても、医師不足で徹夜の当直後にそのまま外来の診察をせざるを得ない激務の状況であるにもかかわらず、市民はそれに気づかず、いつでも医師が診てくれるのが当然のような感覚で受診していた「医師不足と住民の無理解が重なることによる医師の極端な負担」があった。

「当直明け36時間連続勤務」「外来、入院、救急、緊急手術の危険な綱渡り」「患者の無理解によるコンビニ受診」などで医師が疲れ果て、病院から立ち去った後になって、小児科を受診していた子供の母親たちが医療崩壊の現実に直面した。その後母親たちを中心に医師の勤務の厳しい実態を学ぶ中で、医師を守る運動の重要性に気づき、「県立柏原病院の小児科を守る会」を発足させ、地域医療を守る運動を進めていった。

当初母親たちは、兵庫県に医師の派遣を求める署名運動などもやったが、県からは「医師派遣は無理だ」と告げられ、その後「自分たちで医師が働きやすい地域を作ろう」と方針転換し、①コンビニ受診を控えよう、②かかりつけ医を持とう、③お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう、の3つのスローガンを掲げて活動を展開した。

「地域医療を守るのは一人ひとりの心がけ」と、今でも様々な取り組みを展開しており、現在、柏原病院の小児科は、過去最高の7人体制にまでなった。

この活動は、地域医療を守る取り組みとして高い評価を得、当時の厚労大臣も視察に来るなど、全国的に注目されている。

5、所見

全国の自治体病院の経営悪化問題の背景には、国の臨床医師研修制度の改正を契機にした、地方の病院から大学病院への医師の引き上げによる「医師不足」「医師偏在」が大きく存在する。

一方で、医師の働きやすい環境づくりがおろそかにされたまま、勤務の厳しさを放置していた状況もあった。

今回のセミナーは二つの課題について学ぶことができた。一つは事務長を中心とする「経営マネジメント力」について。二つ目は、地域住民が医師を大切にする取り組みが、その地域で働こうという医師を増やすことにつながった事例である。

最初の「経営マネジメント力」については、事務長の経営能力、手腕によって、病院の経営はかなり左右される、ということが理解できた。例えば、高価であるが治療効果の高い薬が販売され、医師がそれを使いたい、と思ったり、最新の医療機器を導入したいと考えても、事務長に医師を納得させる「力量」があれば、経営バランスや経営体力を考え、医師としっかりと議論し、時にはブレーキをかけたり、別の機器や薬品を進めるなど、きちんと対応ができる。また、使用頻度の少ない機器を購入したり、デッドストックの資材が溜まっている、ということにならないよう、しっかりした物流管理もできる。

しかし、自治体病院の中には、事務長が市長部局からの定期異動で回され、病院経営に全くの素人が着任するケースもある。これでは病院の経営マネジメントはおぼつかない。京丹後市は二つの市立病院があるが、事務長の市長部局からの定期異動のメリット・デメリットについて検証することも必要だと考える。事務長は、長期に腰を据え、専門知識に富み、医師や大学とのしっかりとしたパイプづくりができる、いわゆる「プロパー」が必要であり、そのような人材を育成、または招聘することも検討すべきである。

次に、兵庫県丹波市の地域住民が医師を守る運動は、京丹後でも参考にすべきである。京丹後市でも宇川診療所の閉鎖問題が起きた。宇川診療所は、入院施設がある診療所であり、それを一人の医師が守って来られたものの、入院ベッドがあるため、年間365日無休で対応しなければならず、その体制に限界がきた、ということも医師撤退の一因である。

医師の「こころざし」に頼り、それを空気のように「あつて当たり前」のようにしていると、丹波市の柏原病院のように、ある日医師が立ち去ってしまい、その時に初めて気づく、ということになりかねない。

医師が働きやすい地域を作り、地域医療を守る取り組みを進めた中で、丹波新聞の足立記者は次のことに気が付いた、と述べておられるので資料から引用する。

「活動を進める中で気づいたことは、医師と住民は、医療を施すものと受けるものという『相対するもの』ではなく、ともに力を合わせて地域の医療を作り上げていくパートナーのようなものだということだ。今いる医師が働きやすい環境、医療に理解のある地域づくりを進めることが大切である。」

このことは地域医療を考えるうえで、非常に大きな意味を持つ。つまり、住民が作る環境により、医師と住民とが相互に支えあえるパートナーになり得る、ということである。

京丹後市の地域医療を考えると、医師などのマンパワーが圧倒的に不足していることが明らかだ。医師の研修制度の変更により、医師から選ばれる地域や病院には多くの医師が集まり、そうでない地域は医師が不足する「医師の偏在」は当面続く。

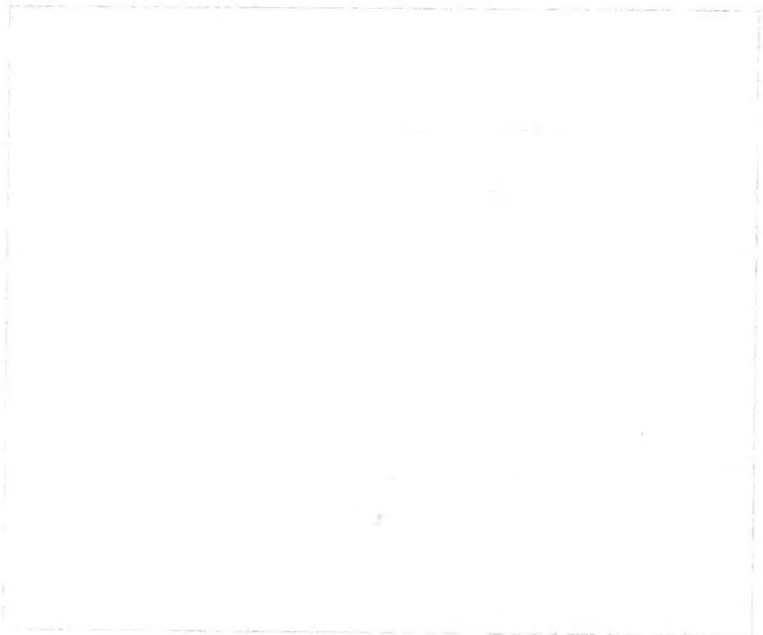
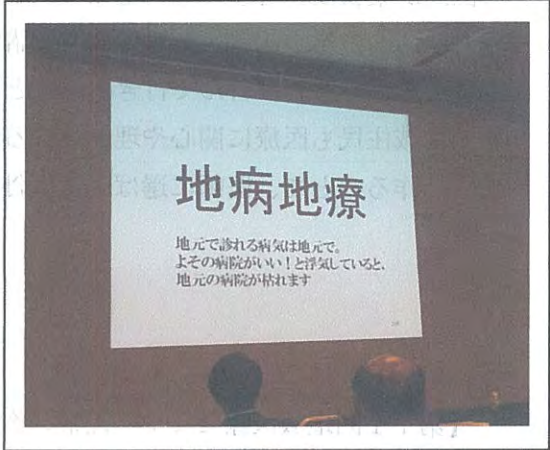
丹波新聞の足立記者に、京丹後市に講演に来てもらえないか、と打診したところ、呼んでいただければ喜んで行きます、と快諾いただいた。今おられる医師が働きやすく、地域住民も医療に関心や理解がある地域づくりを、行政、医療者、住民が一緒になって作ることで、医師に選ばれる京丹後市にしなければならない、と強く思えた。

添付資料

【第11回地域医療セミナー開催の案内・要綱等】

【参加者名簿】







全議病院第15号
平成27年8月24日

各加盟都市・組合議会議長 殿

全国自治体病院経営都市議会協議会
会 長 浅 川 仁
(奈良市議会議長)

第11回地域医療政策セミナーの開催について

各加盟都市・組合議会による病院経営の健全化のための活動に資することを目的に「第11回地域医療政策セミナー」を開催し、地域医療の確保・再生に向けた議論を深めたいと存じますので、下記のとおりご案内申し上げます。

つきましては、皆様の幅広いご参加をいただき、有意義なセミナーといたしたく存じますので、議員各位及び関係各部署へご案内いただきますよう、よろしくお願いたします。

参加の申込みまたは不参加の報告につきましては、別紙参加申込書（不参加報告書）に必要事項をご記入のうえ、10月19日（月）までに全国市議会議長会宛てにファクスにてお願いたします。

準備の都合上、不参加の場合もご報告をお願いいたします。

記

- 1 日 時 平成27年10月29日（木）午後1時～4時40分（正午受付開始）
- 2 場 所 都市センターホテル 3階「コスモスホール」
東京都千代田区平河町2-4-1
TEL 03-3265-8211
- 3 開催要領 別紙〔第11回地域医療政策セミナー（開催要領（案））〕参照
- 4 参加対象 全国自治体病院経営都市議会協議会加盟都市・組合の議会正副議長、議員、議会事務局職員、病院職員及び市長部局担当職員
- 5 定 員 400名程度（先着順）
※1団体当たり的人数制限はありません。
※申込状況については全国市議会議長会フェイスブックに随時掲載いたします。（<https://www.facebook.com/sigichokai>）
※定員に達した時点で申込を締め切らせて頂きます。
- 6 参加費 無料（ただし本協議会加盟都市以外は1人2,000円）

※申込は、議会事務局を通じてお願いたします。

※駐車スペースがありませんので、公共交通機関をご利用いただきますようご理解とご協力をお願いたします。

担当：全国市議会議長会 政務第二部 福田・内田
TEL:03-3262-5236 FAX:03-3263-5751